今回のインタビューでは、労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団東京中央事業本部相談役＆よい仕事ステーション主任の志波早苗さんにお話を伺いました。志波さんの前職は一般社団法人くらしサポート・ウィズであったため、その時の経験なども含め、主に協同組合というものについてお話を伺いました。協同組合とは、同じような考えを持った人々が集まり、自分たちで運営して、自分たちで出資して、自分たちで分配する団体だそうです。お金を持っている株主の発言権が強い株式会社とは違い、議決権は１人１票なので、平等に話し合いを進めていくことができるそうです。需要を探しに行くのではなくそもそもほしいと思ったものを作るため、安定性も高くなっています。しかし、その分出資を得るためにいかに必然性を訴えるか、いかに理解してもらうかなどが重要な課題となっているようです。さらに、株式会社のようなトップダウンの仕組みがないことによって、大きな物事を決断する際にはとても長い時間がかかるそうです。パルシステムの共同購入を個別配送に変える際の話し合いは３，４年ほどかかったそうです。このお話の際の「人の気持ちが合わさった際には大きなものが出来上がる」という志波さん言葉を聞いて、私は協同組合の話し合いはとても大変だが、達成感のあるものなのだと思いました。そして、本当に必要なものを本気で考えているのだと感じました。
また、ワーカーズコープの現在の問題についてもお話を伺いました。最近は、子育て関連の事業における不祥事があったそうです。しかしこれは、ワーカーズコープだけの問題ではなく、連携がうまく取れない行政や、子育てに関する現場が人手不足である日本の現状の問題でもあるそうです。このような問題を解決しようと、ワーカーズコープは保育者を養成する講座を開設する計画を立てているようです。このように地域のことを考え、必要なことを計画ということは、協同組合だからこそできることであると感じました。志波さんは、現在の日本の社会問題として貧困が大きな問題であると考えているそうなので、私たちも貧困が少なくなるような努力をしなければいけないと思いました。
今回のインタビューでは、志波さんに貴重なお話を伺い、協同組合について詳しく学ぶことができました。また、現在の社会問題について考えるきっかけにもなったので、今回学んだことを今後のゼミ活動に活かそうと思います。